

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 **新**テクノプラザ DX 実践拠点運営事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 新産業・エネルギー振興課 成長産業係 電話番号：058-272-1111 (内 2935)

E-mail：c11353@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,636 千円 (前年度予算額：-千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	5,636	0	0	0	0	0	0	0	5,636
決定額	5,636	5,636	0	0	0	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・県では、デジタル・トランスフォーメーション (DX) 推進計画を令和3年度に策定し、産業分野においては、企業の規模や業態に応じて、デジタル技術を活かした製品・サービス等の付加価値向上や業務、製造プロセスの効率化によるビジネス変革を実現するため、各支援機関との一体的な支援により、県内産業のDXを推進することとしている。
- ・一方、テクノプラザはITとものづくりの融合による産業の高度化などを目指す拠点として平成10年に開設されたが、科学技術振興センターの廃止など機能が変わる中で役割が見えなくなってきた。こうした中で、DX推進計画に沿った産業振興拠点としての利活用促進を図るため、DX実践による新ビジネス創出拠点として役割を明確にし、情報発信・技術支援・交流機能を強化する必要がある。

(2) 事業内容

① 情報発信スペースの整備・運営

テクノプラザ本館4階の展示ホールを整備し、産業のDXに有効な要素技術であるローカル5Gやロボットを活用した実践事例の紹介や、宇宙分野への応用、テクノプラザに入居する新ビジネス創出を支援する産業経済振興セ

ンターや(株)ブイ・アール・テクノセンター等の支援メニューを紹介する。
また、情報発信には案内ロボットを活用するなど DX 実践拠点に相応しい方法で実施する。

②WGの技術支援

ローカル5Gやロボット等により工場のスマート化等に取り組む企業で構成するワーキンググループ(WG)の活動を、主に技術面から支援する。

③技術交流会の開催

テクノプラザ等で、ローカル5Gやロボット等により産業のDXに取り組む企業を招集し、テクノプラザ本館4階の交流サロンで技術交流会を開催する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県が策定するDX推進計画に沿って、県内企業のDX推進のために利用するため、県が取り組むことは妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	5,555	業務委託料
事務費	81	報償費 42 旅費 36 需用費 1 役務費 2
合計	5,636	

決定額の考え方

財源については、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当します

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県DX推進計画 産業分野のDX

(2) 国・他県の状況

他県：東京都立産業技術研究センター(R2年度)、兵庫県立工業技術センター(R3年度)及び新潟市(R3年度)が、産業界向けにローカル5Gの実証拠点を整備し、産業のDX推進を支援。

(3) 後年度の財政負担

情報発信スペースの運営、WG技術支援、交流会開催費 4,688千円

(4) 事業主体及びその妥当性

産業のDXに関する情報発信や技術支援には、DXに精通した技術と経験が必要であり、これらを兼ね備えた民間企業に委託する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/>	新規要求事業
<input type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 テクノプラザでのWG活動を通じたDX実践や技術交流を契機として、ロボットやローカル5G等のデジタル技術を活かした製品やサービスの付加価値向上や新ビジネスの創出、製造プロセスの効率化に取り組む企業を支援し、県内産業を振興する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R3)	R4年度 目標	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
						%
新たなDX実践に取り組む企業数（累計）	0社	5社	10社	15社	20社 (R4-R7累計)	%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	
令和 3 年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価)	
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：まだ期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 テクノプラザが有する DX 関連の要素技術や取組みは県内企業に広く周知されていないため、ソフトピアジャパンや産業経済振興センター等の他の支援機関と連携して、県内産業の DX を推進する必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 産業の DX に関する技術動向、県の宇宙プロジェクトの取り組み状況、情報発信スペースでのアンケートや技術交流会参加者の意見を参考にして、情報発信や技術交流会の内容について、見直しを行っていく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	